

京都環境賞
特別賞（市民活動賞）
特別賞（企業活動賞）
特別賞（環境教育賞）
特別賞（KES 推進賞）
特別賞（環境未来賞）
奨励賞
（エコ学区部門） エコ学区特別推進賞
（エコ学区部門） エコ学区推進賞



京都環境賞「エコ学区特別推進賞」



南太秦学区(右京区)

＜テーマ＞モビリティ・マネジメント事業の先駆けとなった地域活動

住民参加型の公共交通利用促進のために、モビリティ・マネジメント事業（1人1人の移動を望ましい方向に変化することを促す、コミュニケーションを中心とした政策）を先駆的に開始し、現在もバスの利用を促す取組を継続され、その結果、バスの一日平均利用者数が増加し、「バスの駅」が設置される等、具体的な成果を収められました。



また、エコ学区の活動メニューとして提供している「エコ学区チャレンジプログラム」では、「エコなおでかい」をテーマにエコな移動手段の実践に取り組み、エコドライブの実践講習等を体験されました。

そのほか、自治連合会、小学校等が協力し、エコ学区の支援物品である「グリーンカーテンセット（ゴーヤの苗）」を活用して、小学校の壁面緑化に平成26年から2年続けて取り組みました。



南太秦自治連合会の高岡会長によると、学区内の住民にバス利用を促進するだけでなく、南太秦学区を走るバスの路線に含まれる近隣の学区に対しても、バスの利用を呼びかけているそうで、その背景には、住民の高齢化等による自治会加入率の低下があるとのこと。更なる取組に向けて実現に至っていないアイデアが多数あるので、引き続き、バス利用を促し、自家用車の利用を減らしていきながら、環境にやさしい新たな取組をされるそうです。今後は、学校運営協議会の一員としても、地元の小学生と一緒に環境学習をしていきたい、と意気込みを語られていました。

「危機感を持って取り組む。わかってもらうために、何度も足を運ぶ。手間暇をかける。じっとしていても、何も手に入らない。なんでもやってみなわからん。『できない』ではなく、できる方法を探す。手探りでも他より早く着手し、1番を目指す。そうすることで、光の当たり方が変わる…」



「エコ学区推進賞」受賞学区の取組



元町学区(北区) ＜テーマ＞「エコの日」の設定による学区内への環境啓発

学区が「エコ学区」になったことを契機に、「元町エコの日」を定め、学区全体にエコ活動を広げたとともに、環境についての啓発活動を実施されています。

出水学区(上京区) ＜テーマ＞使用済てんぷら油を用いた小学校での石けん作り

学区内の各拠点から回収した使用済てんぷら油を利用し、女性会が中心となって、小学校において石けん作りを実施されています。

吉田学区(左京区) ＜テーマ＞学区内の各団体が協働した吉田山の再生を通じた環境活動

吉田山の自然を守り、里山を再生させることを目的に、学区内の様々な団体が協働して、清掃や植樹等を行う自然環境の保全活動を実施されています。

朱雀第六学区(中京区) ＜テーマ＞二条駅を中心とした地域主体の環境活動

自治連合会が主体となり、「ごみゼロ運動」と題した二条駅一帯の一斉清掃を実施するとともに、駅周辺で緑化活動を実施されました。

粟田学区(東山区) ＜テーマ＞白川の河川美化による環境保全活動

白川及びその周辺の自然環境の保全のため、河川の一斉清掃を行うとともに、「エコ学区」で取り組む学習会を複数回開催されました。

梅選学区(下京区) ＜テーマ＞地域ごみ減量推進会議を中心としたエコ活動

エコな取組を重視した祭においてエコ工作の実施やリユース食器の利用を進めるとともに、コンポストを利用した堆肥化を実施されています。

上島羽学区(南区) ＜テーマ＞ごみ減量の啓発・実施を通じた環境活動

ごみの減量をテーマに学区の夏祭りをエコ化するとともに、使用済てんぷら油を利用した石けん作りを行う学習会を開催されました。

松陽学区(西京区) ＜テーマ＞モビリティ・マネジメント事業による公共交通の利用

公共交通機関であるバスの利用を呼び掛けるモビリティ・マネジメント事業に取り組むことで、自家用車の使用を抑えるよう啓発されています。

大原野地域(西京区(洛西支所)) ＜テーマ＞生ごみのリサイクルと農作物の地産地消

地域で集めた生ごみを堆肥化することで、ごみの減量とリサイクルを図るとともに、自然豊かな環境を背景に生産された農作物を近隣市街地で販売する地産地消に取り組まれています。

南浜学区(伏見区) ＜テーマ＞一斉清掃により収集した落ち葉の堆肥化

一斉清掃の際に収集した落ち葉を、小学校等で堆肥化することで、ごみの減量に努めるとともに、堆肥をグリーンカーテン等に利用されています。

砂川学区(伏見区(深草支所)) ＜テーマ＞山間地域との姉妹交流による自然環境教育

山間地域との姉妹交流を行う「さと・まちコラボ」を活用し、里山の自然を体感することにより、生物多様性や自然環境の保全について学ばれています。

小栗栖宮山学区(伏見区(醍醐支所)) ＜テーマ＞堆肥化による地産地消の取組

学区内で収集した落ち葉の堆肥を用いて、野菜等の栽培を行い、小学校等で調理する地産地消の活動を実施されています。

